

#### 自己紹介

めばえ適塾とは?



→統計教室やサイエンス教室を通じて研究者の基礎を学ぶ

#### 小中高生対象の研究支援プログラム



#### 合宿目的

今回の合宿を通じて自らの体験として学びを深める

- 東日本大震災による被害の実態とスケールを知ること。
- 進む復興と残された課題について学習すること。
- •被災地の今とその背景を知ること。
- ・放射線を測ることによる放射線リスク・リテラシーを理解すること

### 発表の概要

01

学習前のイメージ

福島県に対して抱いていた感情

02

現地での体験

実際に訪れて感じたこと

03

印象に残った施設

特に学びが深まった場所

印象に残った活動

福島県への理解が変わったか

未来への考察

30年後、60年後の浜通り



# 浜通り地区に行く前と行った後のイメージの変化

Before	After
・「福島=放射線 ,原発事故」を連想	・放射線だけでなく、地震、津波の被害 →福島 ≠ 放射線
<ul><li>・福島県に対する負の感情はなかった</li><li>→福島県産の野菜やお米を避けることはし</li></ul>	・廃炉作業が着実に進んでいる
ていなかった <b>・「東日本大震災」よりも</b>	<ul><li>・人が住めるようになってきている</li><li>→除染が進んでいる</li></ul>
「福島第一原発事故」のイメージが強い	・僕自身は住みたいと思った
<ul><li>・復興して活気あふれる町になっていると</li><li>思っていた</li><li>→そこまで興味を持っていなかった</li></ul>	

# **02** 現地での体験

## 震災遺構 請戸小学校







## 東京電力廃炉資料館





## フィールドワーク in大熊町







## サイエンス交流会 in学び舎ゆめの森







## 中間貯蔵施設







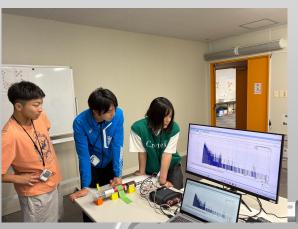
# サンプリング



@大熊町役場 澤原さま邸宅の裏山







## 現地の方との交流 in 富岡町









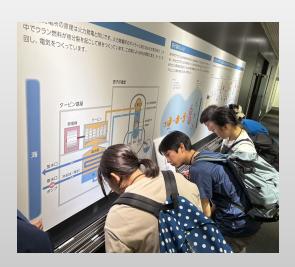
# 03

印象に残った施設

## 印象に残った3つの施設



請戸小学校



廃炉資料館



中間貯蔵施設



### 試料採取 - 整理 - 測定

- ・事前学習の知識が活かされた
- ・セシウム137を吸収しやすい「キノコ」を採取
- ・多くの先生方にご指導いただきながら測定実習
- ・測定結果から考察、議論
- •Nal検出器の向きによって測定値に差が生まれる

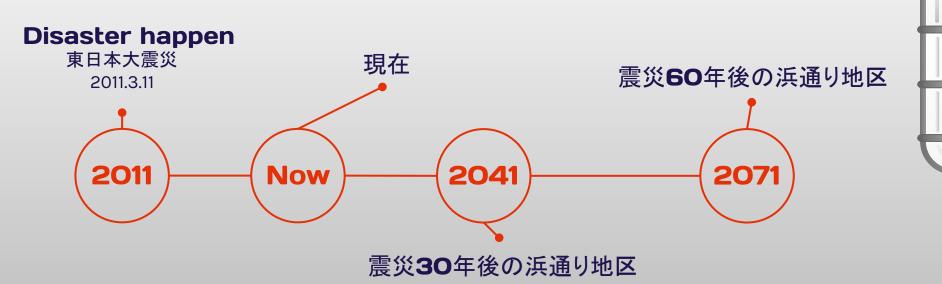






# **05** 未来への考察

## 僕らの浜通り地区未来予想



### 福島の抱える問題

#### 風評被害

福島に対しての

マイナスなイメージ

#### 土地

福島にあまり 魅力的な土地がない

#### 産業•商業

代表する産業があまりなく 産業の発展が難しい

## 30年後と60年後の未来予想

30 年後

#### 交通アクセスを生かした発展

東京、仙台へのア クセスが進歩する



#### 旅行先と移住先の候補

娯楽施設が 開設する

#### 事故を風化させない

- 正しい知識で震災 の被害を知る
- 身の回りの人と福島第一原発事故についてや、その後の復興作業についてを考える
- 教育施設以外にも 娯楽を取り入れる

#### 浜通りの魅力創出

- 「安全性を伝える」 フェーズから「魅力 を伝える」フェーズ に移っている
- 地域の特産ができていて、他県の住民がそれを認知している

# 謝辞

今回「めばえ適塾浜通り合宿」を実施するにあたって、 「浜通り環境放射線研修」の関係者の方々、浜通り地区の現地の皆さま、 並びに現地にて引率してくださった京都大学の角山雄一先生には 大変お世話になりました。

また、本合宿の企画運営、事前学習から現地の活動において サポートをしてくださった吉田裕介先生、中島裕夫先生、TAの宮岡玲奈さん、 並びにめばえ適塾事務局の方々に心より感謝申し上げます。 本当にありがとうございました。

# ご清聴 ありがとうございました